令和６年度　授業改善推進プラン（課題分析と授業改善策）　　学校番号[小 32]　光が丘秋の陽小学校

	課題分析	授業改善策
1年	【算数】 ○数の概念や計算の意味をあまり理解していない児童がいる。「５は２といくつ」の問いに７と答える児童が数名いる。 ○「前から何番目、前から何人」の理解が曖昧な児童がいる。 ○文章を読んで立式できない児童、「どちらがどれだけ多いか。」の問いに正しく答えられない児童が多い。	○実際に具体物、半具体物（おはじき、算数ブロック）に触れながら、数や量、図形の感覚を身に付ける活動を増やす。ドリルパークを活用して、楽しみながら定着するよう反復練習させる。 ○日常生活や他教科の学習で「何番目」を活用することにより、理解を深める。 ○文章を正しく理解し、内容を捉えられようにする。具体物、半具体物を使って、式を立てられるように掲示物（絵や図）を活用して繰り返し取り組ませる。
2年	【算数】 ○数の構成を理解できない児童が多い。 ○文章問題（特に引き算、「どちらが、どれだけ多い」など）で立式できない児童が多い。 ○時刻を読むことに慣れていない児童がいる。また、時刻と時間の区別ができない児童が多い。	○具体物・半具体物に触れながら、数や量の感覚を身に付ける活動を増やし、理解の定着を図る。 ○線分図や図などを使って、視覚的に分かるように工夫し、自力解決ができるようにする。 ○普段の学習の中で、実際の時計を使って、時刻の読み方を繰り返し練習させたり、あと何分でなど、時間を意識して活動させたりする。
3年	【算数】 ○かけ算九九等の基本的計算技能の定着が不十分な児童が多い。 ○問題文を読んで、場面を適切に理解したり必要な情報を取り出したりして立式はできるが、筋道を立てて説明することが苦手な児童が多い。	○九九表を用いながら、繰り返し指導を行っていく。プリントや宿題などを通して定着を図る。 ○数直線や図などを活用し、考えを交流させることで、説明する力を高める。また、初めの段階では説明するためのフォーマットを用意し、説明の仕方を指導する。
4年	【社会】 ○資料から分かったことを言語化する力の個人差が大きい。 ○十分に興味や疑問をもたせ、学習課題をつかませる指導の工夫が必要である。	○資料を精選し、情報量を絞ることで調べやすくする。また、写真やグラフなど視覚的に情報を得やすい資料を中心に提示していく。 ○具体物の提示、社会科見学やインタビューなどの活動、動画などの映像を活用し、学習への意欲を高める。
5年	【国語】 ○自分の伝えたいことを自分の言葉で分かりやすく話すことに苦手意識をもつ児童が多い。 ○漢字の定着に個人差が大きい上に、日常生活での活用につながっていないために、語彙が増えていかない。	○話したり聞いたりするときのポイントをまとめたカードを提示して、日常的に活用して意識させる。 ○漢字の反復練習に止まるのではなく、熟語を集めたり、文中で漢字を使ったりして、日常生活での活用を意識した練習をさせる。辞書を活用し語彙を増やす。
6年	【算数】 ○課題に対して図や式を用いながら、根拠をもって考えたり表現したりする思考力、判断力、表現力等の能力を向上し、論理的な思考を行えるようにする必要がある。	○課題解決場面の思考を促すために、必要に応じて「見通し」をもたせ、図や表などの思考・表現ツールを適宜活用させながら自力解決の力を高める。
専科	【図工】 ○材料の特徴や用具の基本的な使い方を身に付け、工夫や表現につなげていくことや、見たり感じたりしたことから考え、喜びを感じながら、自分なりに発想し、表現していく力が必要である。 【音楽】 ○コロナ禍の感染予防で関わり合いが減っていたために、友達同士で一緒に演奏したり、教えあったりする活動が経験不足である。	○材料や道具を使う経験や機会を増やし、様々な表現方法を見付けたり、感じたり考えたりしながら、発想することや工夫することを表現する喜びにつなげられる児童を育てる。 ○リコーダーのペア学習、合奏のときのパート内の教え合いなど、友達と関わり合う活動を大切にして、お互いの音を聴き合う素地を育てたい。